

《ルクセンブルク中央銀行（BCL）2012年第1回マクロ経済報告》

1. インフレ

当国ではインフレが進行しており、平均インフレ率（当国基準消費者物価指数）は2010年に2.3%、2011年に3.4%となった。2011年は、7月に例外的に2.9%となった以外は3.2%～3.7%の間で推移した。ここ2年以上、当国のインフレはユーロ圏他国や近隣諸国に比べて常に高くなっており、ユーロ圏とのその差は0.7%に広がっている。この開きは2000年以来で最高である。

2. 雇用・失業

（1）派遣業につき、2009年末から2010年初めにかけて派遣従業員が増加した後は、減少傾向にある。2011年1～11月の派遣従業員の数平均6,472人で前年に比べ5.0%減少している。この減少には、2010年5月1日に施行されたEU法令も影響しているが、原因はそれだけではない。派遣業は雇用市場において調整の機能を果たしていることから、経済低迷が続く中、派遣業は雇用市場の傾向の変化を示す先行指標となっている。

（2）最新のデータである2012年1月の失業率は5.9%。2011年12月に失業者数が前月より9%増加し、経済状況の悪化が鮮明となった。これは、雇用が全体的に減少し（特に越境雇用）て失業者が増加したことに加え、年末で契約を打ち切られた派遣労働者の雇用局（ADEM）登録が増えたこと、雇用局での求人数が少ないこと等が理由として挙げられる。

3. 工業

2010年に回復を見せた工業生産は、2011年初めに再び下落した。2011年の年間工業生産は3.6%減。一方ユーロ圏全体では3.5%増加した。2011年12月期の当国工業生産は2008年7月期より20%縮小。

4. 建設

建設セクターは2008年、2009年には工業に比べて業況は良かったが、2010年、2011年の収益は不調であった。2011年1・2月は前年末の大雪の反動等で業績は好調だったが、第2四半期・第3四半期には前年比で減少に転じている。2011年1～9月期の住宅建築許可数は3261件と、前年同期を28%上回っている。住宅建設が建設セクターの牽引力となっているが、公共事業の不調を補うことができるかどうかは不明である。

5. 金融

2011年12月末時点の金融機関従業員数は26,696人で、同年9月末と比べて37人減少。10～12月の間に46金融機関が増員を行ったが、48機関で減員された。

6. 経済成長率

2011年第3四半期の実質GDP成長率は前期比+0.6%。年間成長率は+1.1%。国内需要全体では成長率はプラスとなった。総固定資本形成は年間で52.3%増加した一方で、民間支出・政府支出の伸びが芳しくなかった（年間成長率それぞれ+0.7%、+0.2%）。セクター別に見ると、商業・運輸・通信セクターと金融セクターがそれぞれ前期比0.5%、0.8%とプラス成長だったが、工業セクターは-1.1%と後退した。建設セクターは前期比+0.2%。

（詳細はルクセンブルク中央銀行HP(www.bcl.lu)内 Bulletin 2012/1 をご参照ください。）